

COG2025 応募内容確認書

ID	7-4-2
自治体名	茨城県水戸市
自治体提示地域課題	1 . 3 Dで何が見えるようになる? ~ 「3 D都市モデル」の活かし方 ~
チーム名	ミトクル
アイデア名	Mito Cool プロジェクト ~ 市民とPLATEAUでつくる賑わいの循環 ~
チーム属性	市民: 市民だけで構成されたチーム
チームメンバー数	3
代表者	長山 努
メンバー (公開)	長山 努, 千葉 はづき, 吉川 亜紀

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

チーム名	ミトクル (語源) ”水戸クール” と ”水戸へ来る”
アイデア名	Mito Cool プロジェクト ～ 市民と PLATEAU でつくる賑わいの循環 ～
該当する自治体名	茨城県 水戸市
自治体提示の地域課題	3Dで何が見えるようになる? ～「3D都市モデル」の活かし方～

<もくじ>

1. アイデアの全体像
 - 1-1. 提案するアイデアのあらまし
 - 1-2. 提案するアイデアの内容
2. アイデアの理由
 - 2-1. 理由のポイント
 - 2-2. 根拠と裏付け
3. 実現までのながれ
 - 3-1. 実現する主体
 - 3-2. 必要な資源と調達方法
 - 3-3. 実現までのプロセスと時間軸
 - 3-4. 想定リスクとその対応策

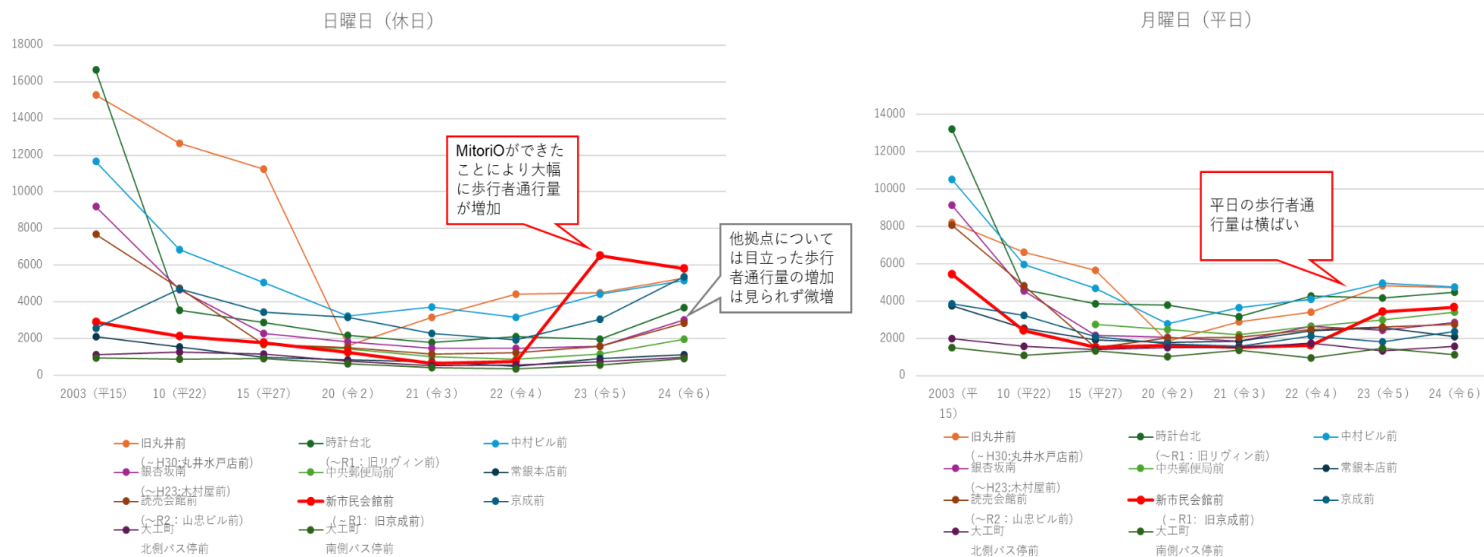
1. アイデア全体像

1-1. 提案するアイデアのあらまし

①背景と課題認識

水戸市の中心市街地では、長期的に歩行者通行量や商店街の賑わいが減少傾向にあり、駅周辺と各エリアが十分につながっていないことが課題となっている。一方で、水戸市民会館の開館により、文化・交流を目的とした来訪者が増え始めており、特定の時間帯やイベント開催日には、水戸駅からMitoriO(水戸芸術館と水戸市民会館、水戸京成百貨店の3つの施設が並ぶ地区の愛称)に向かう人の流れが確認されている。

しかし現状では、その人の流れが周辺商店街や他の主要スポット(アダストリアみとアリーナ、偕楽園、千波湖など)へと十分に波及しておらず、「点としての賑わい」に留まっている状況である。【図1】



【図1】日曜日(休日)と月曜日(平日)の水戸駅近郊の歩行者通行量
出典: 水戸市 水戸市歩行者通行量調査・各調査地点の通行量推移について

さらに近年、地球温暖化の影響により夏季の猛暑日が増加し、屋外での徒歩移動は身体的・心理的な負担が大きくなっている。かつて中心市街地の歩行環境を支えてきたアーケードは、老朽化や撤去が進み、日差しや暑さを避けながら歩くことが難しいエリアも少なくない。

②アイデアの着眼点

こうした課題に対し、本提案では「歩行環境」と「回遊性」に着目する。

人が街を回遊しない理由は、目的地がないからではなく、「途中が快適でない」、「歩く理由がない」ことにあると仮説し、街の中に安心して歩ける“線”をつくり、歩く行為そのものを価値ある体験へと転換することを目指す。



1-2. 提案するアイデアの内容

本提案は、水戸駅からMitoriOなどの主要スポットを結ぶ動線に着目し、「日陰」や「涼しさ」といった要素を取り入れた安心・安全に歩ける環境を作り、街全体の回遊性を高めるものである。

本アイデアの特徴は、PLATEAU(3D都市モデル)を活用し、周辺建物や日照条件などを踏まえた科学的根拠に基づく日陰ルート設計を行う点にある。

感覚や経験則に頼るのではなく、3Dデータを用いて「どこに日陰が生まれやすいか」「どこに緑や休憩所を配置すべきか」を可視化し、効果的な動線を導き出す。

「日陰」や「涼しさ」は、街路樹や植栽による緑化、沿道の商店や施設と連携し、冷たい飲み物の提供や休憩スペース提供により実現する。

さらに、デジタルツールを活用したゲーミフィケーションにより、歩くきっかけや街の魅力発見・体験を組み合わせることで、人の流れを自然に市街地全体へと広げていく。

「点の賑わいを線につなぎ、線を面へ広げる」ことが、本アイデアの目指す姿である。



本プロジェクトにおいて、PLATEAUを単なる技術導入としてではなく、「まちを3Dにすることで何が見えるようになるのか」を可視化し、共有するための手段として位置付ける。

また、本プロジェクトを通じてSDGsの下記目標を達成することに貢献できるものと考えている。



2. アイデアの理由

2-1. 理由のポイント

①水戸市内の賑わい低下と暑さの関係 ②温暖化によるリスク

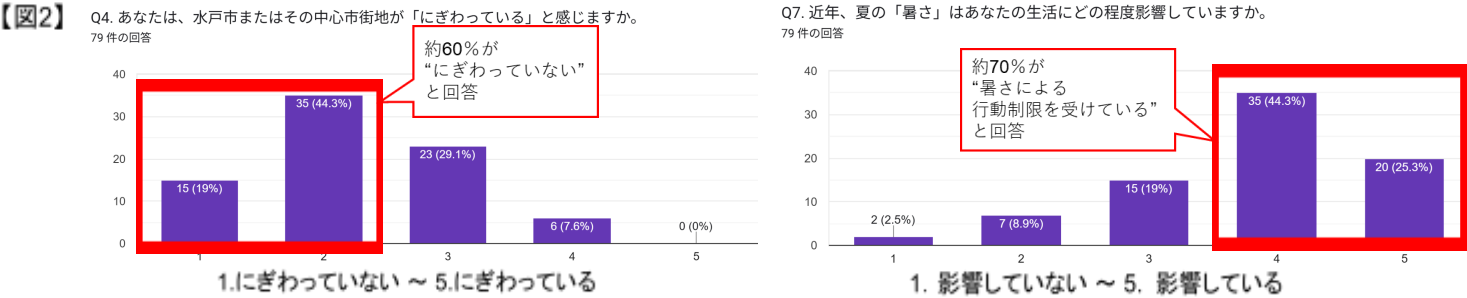
2-2. 根拠と裏付け

①水戸市内の賑わい低下と暑さの関係

水戸市内の賑わいが夏の暑さとう影響をしているか、水戸市民を対象としたアンケートを実施した。
(回答数:79名)

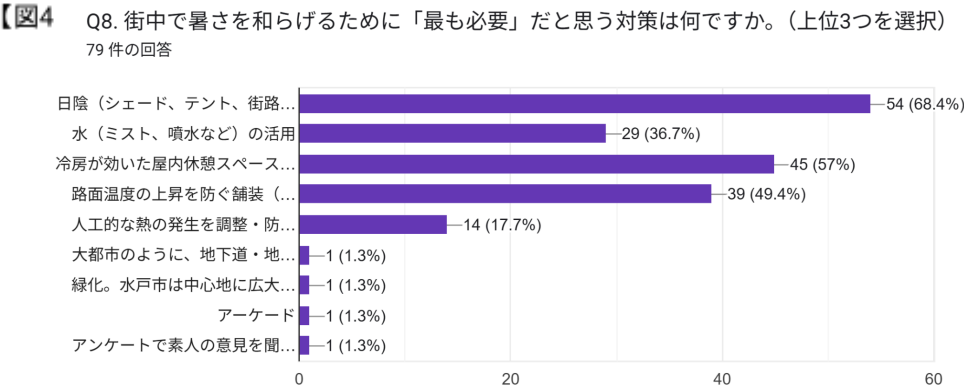
1. 「にぎわい実感」と「外出の機会損失」の相関

街のにぎわいを感じていない層【図2】ほど、夏季の暑さによる行動制限を強く受けている【図3】ことが分かる。これは、「暑さ」が中心市街地の回遊性を阻害する最大の物理的障壁(バリア)になっていることを意味する。
日陰ルートを可視化し、心理的なハードルを下げることは、単なる暑さ対策ではなく、「歩けない街」を「歩ける街」へと変え、にぎわいを再創出するための経済戦略であると言える。



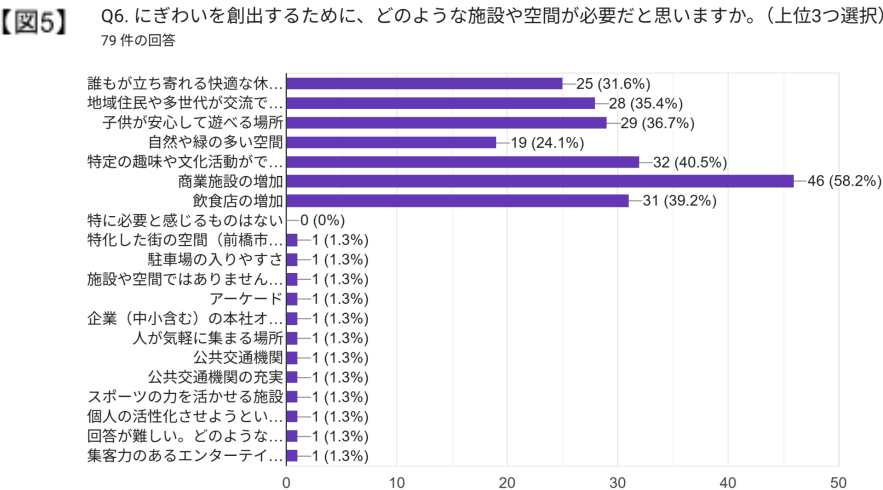
2. 「日陰」の整備が圧倒的に求められている

市民は冷房の効いた部屋に閉じこもりただけでなく、外を歩くための「日陰」を切望している【図4】ことを示しており、街のにぎわいを取り戻すための戦略として「日陰の可視化と整備」が有効であると考える。



3. 「休憩・交流・遊び」ができる空間の整備

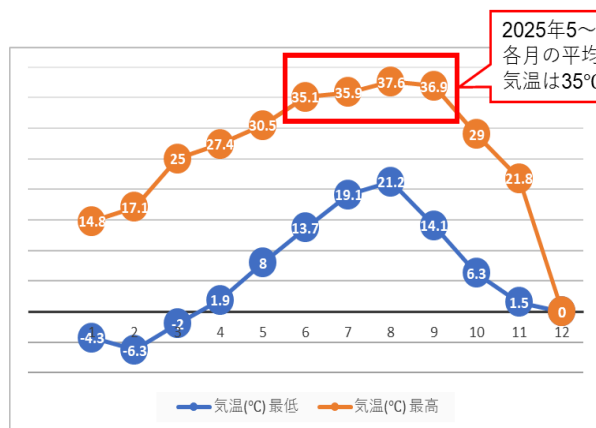
水戸の街を「にぎわい」のある場所にするためには、単なる商業的な発展だけでなく、歩行者が日常的に立ち寄り、滞留できるような居心地の良い空間設計が強く求められているといえる【図5】。



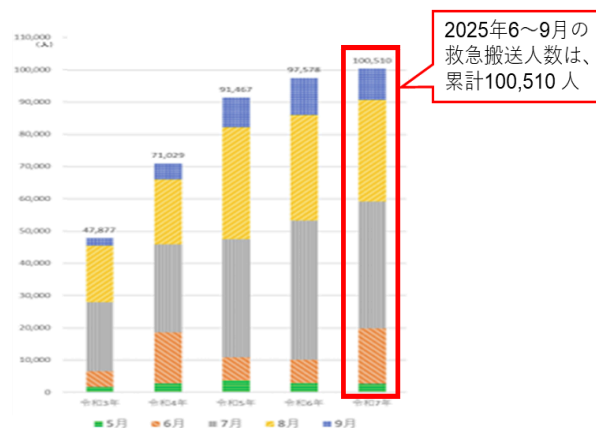
② 温暖化によるリスク

日本の夏(6～8月)の平均温度は、様々な変動を繰り返しながら上昇している。

- ・2025年夏の日本の平均温度基準値(1991～2020年の30年間の平均値)からの偏差は **+2.36℃** で、1898年の統計開始以降**過去最高**を記録！
- ・水戸市の2025年の夏(6～9月)の平均最高温度は、**36.4℃**【図6】
- ・熱中症警戒アラートの発表回数は**過去最多**で、救急搬送人数は調査開始した平成20年以降で**過去最多の100,510人**に【図7】
- ・熱中症が発生している場所別でみると、住居の次に**道路**が多い【図8】

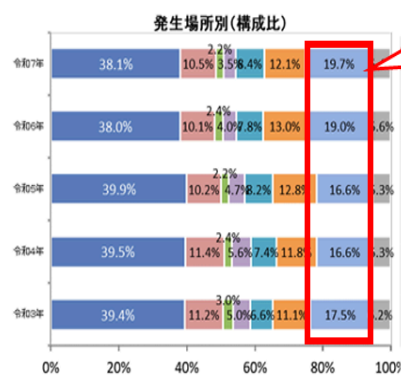


【図6】水戸市 2025年の温度



【図7】救急搬送人数(5～9月累計)

出典:国土交通省 気象庁 各種データ・資料



【図8】救急搬送場所別救急搬送人数(5～9月累計)

出典:総務省 消防庁 令和7年(5月～9月)の熱中症による救急搬送状況

**このような温暖化においては、「医療費が増える」だけではなく、
まちの構造そのものを変えてしまうリスクがある**

- ✓ 直接コスト (医療費、救急体制、インフラ暑熱対策、補助金)
- ✓ 長期の社会保証コスト (介護、福祉、見守り)
- ✓ 経済・税収への影響 (生産性低下、産業被害、観光損失)
- ✓ 行政運営コスト (気候変動適応計画、リスク評価、啓発、法制度対応など)
- ✓ 地域社会・都市構造の変化 (コミュニティの弱体化、居住リスクの偏り)

3. 実現までの流れ(How)

3-1. 実現する主体

- ・本プロジェクト事務局(ミトクール、水戸市):プロジェクト推進、PLATEAU技術導入・支援
- ・地域メディア/プロモーション企業(茨城新聞、NHK水戸放送局、LuckyFM茨城放送、SNS):告知・宣伝
- ・商店街振興組合/主要商業施設:市民の動線に直接関わる協力

3-2. 必要な資源と調達方法

実施にあたり必要な資源と調達方法は下記の通り。

① ヒト(人材)

「公募」を通じて市民を「ファン」として巻き込み、自分事化を促す

- ・プロジェクト推進のためのコア推進人材
- ・ボランティア
- ・沿道商店・企業

② モノ(ツール・技術)

歩くきっかけや街の魅力発見・体験提供するツールとの連携

- ・ALKOO
- ・まちのコイン

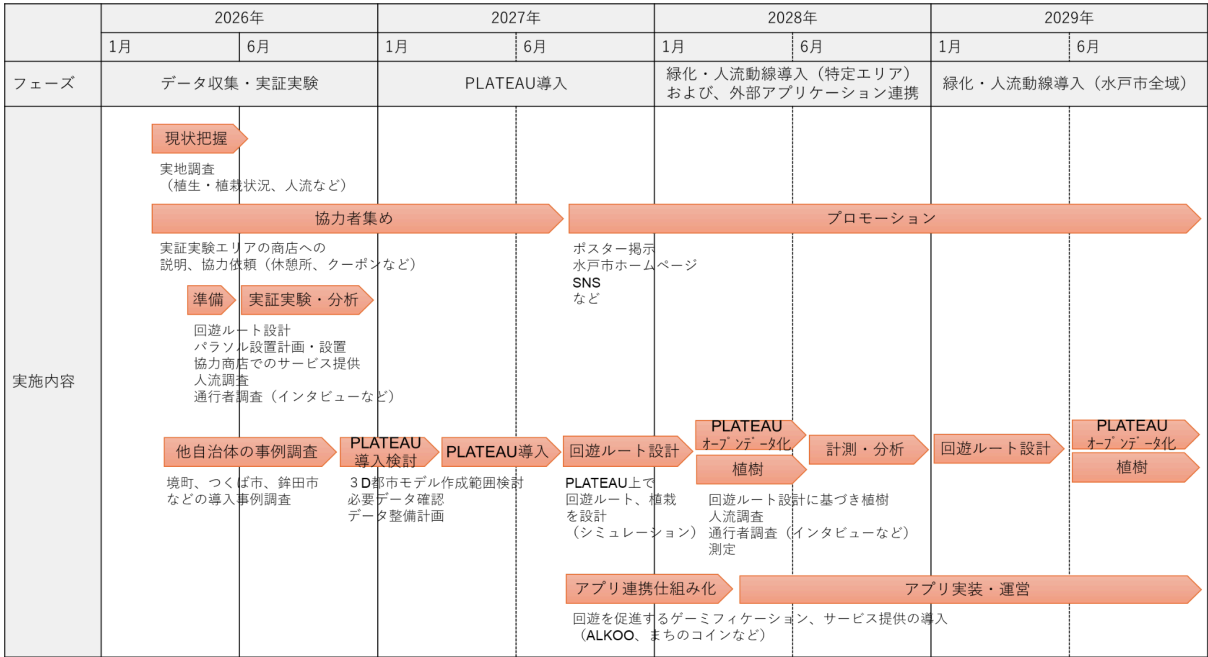
③ カネ(資金)

- ・補助金・交付金の活用(PLATEAU関連事業の補助金、ヒートアイランド対策補助金など)
- ・クラウドファンディング(樹木やストリートへのネーミングライツの販売など)

3-3. 実現までのプロセスと時間軸

Mito Cool プロジェクトは4か年計画とし、実証実験を経て実現を目指す。

- 2026年 植栽を代替したパラソルを活用して実証実験の実施
- 2027年 PLATEAU導入
- 2028年 水戸駅から主要スポットをつなぐ“安心・安全で涼しい日陰ルート”を構築
- 2029年 水戸市全域に“安心・安全で涼しい日陰ルート”を構築



3-4. 想定リスクとその対応策

現時点で想定されるリスクと、対応策(案)は下記の通り。

実証実験におけるパラソルの安全性

- 対応策1: 重り強化、転倒防止アーム ※景観になじませる工夫が必要
- 対応策2: 風速による運用ルールの設定(風速7m/s以上は使用中止など)

実証実験のパラソルコスト

対策: 水戸市備品、リサイクル品などの活用

植栽の管理

対策: 沿道商店、市民ボランティア、水戸市建設部道路管理課のご協力

沿道商店などの協力確保(休憩所やクーポンなどのサービス提供)

対策1: 商工会議所のご協力

対策2: 取組み賛同者による地域コミュニティの発足